



## ⑥ 臨地実習の 意味・意義を再考する

JANPU 看護学教育質向上委員会委員  
千葉大学大学院看護学研究科  
石橋みゆき

1

## 看護実践能力育成における臨地実習の意義

看護の臨地実習は、看護職者が行う実践の中に学生が身を置き、看護職者の立場でケアを行うことである。この学習過程では、学内で学んだ知識・技術・態度の統合を図りつつ、看護方法を習得する。学生は対象者に向けて看護行為を行い、その過程で、学内で学んだものを自ら実地に検証し、より一層理解を深める。言い換えると、看護の方法について、「知る」「わかる」段階から「使う」「実践できる」段階に到達させるために臨地実習は不可欠な過程である。

また、看護実践に不可欠な援助的人間関係形成能力や専門職者としての役割や責務を果たす能力は、看護サービスを受ける対象者と対し、緊張しながら学生自らの看護行為を行うという過程で育まれていくものである。

実習の場で学生は、現実の場面のみが作り出す看護する喜びや難しさとともに、自己の新たな発見を実感しつつ、学生自身ができること・できないことを深く自覚させられ、対象者に対する責任を認識しつつ、看護の特質を理解し学修を深めていく。この過程を通して学生は大きく成長していく。

大学における看護実践能力の育成の充実に向けて 平成14年3月26日 文部科学省 看護学教育の在り方に関する検討会報告  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401.htm)

2

# 臨地でしか学べないことは何か？

臨地（実践の中）に身を置いて看護過程を展開する

知識・技術・  
態度の統合

COVID-19以前の臨地実習のイメージ



調査報告から見てきたCOVID-19禍における実習のイメージ

3

## 看護学教育における臨地実習の意味・意義 COVID-19によって見えてきたこと

○臨地での実習体験は、鍛えた思考を実地に展開する機会

= 学んだ知識・技術・態度を統合する機会

○看護実践現場の状況を体感し、状況に則して、臨機応変に計画を変更し実施できる、柔軟性や対応力を育む機会

○看護サービスを受ける対象者と相対することにより、人間関係形成能力、役割や責務を果たす能力を育む機会

現実の場面のみが作り出す、看護する喜びと感動、難しさとともに、自己の新たな発見を実感しつつ、学生自身ができること・できないことを深く自覚させられ、対象者に対する責任を認識しつつ、看護の特質を理解し学修を深めていく機会

4

# ポストコロナに向けた看護実践能力の育成

- 今一度、自大学の教育理念に照らして、実習目標を振り返り、臨地実習の意味・意義を再考する
- 臨地実習においてベストパフォーマンスを展開できるよう、事前準備をして臨む
- 計画した内容が実践できなかった場合の事後学習でのフォローを準備しておく
- 臨地実習と思考を鍛える事前学習と事後学習を一連の過程として実習を構成し、積み上げていく（鍛えた思考と臨地実習とのリンク）